



浦東地域連絡会活動報告

浦東地域連絡会 会長
森ビル(上海)有限公司 総経理

星屋 秀幸

2015年7月21日、上海環球金融中心29階の環球文化電播中心にて今年度第1回目の浦東地域連絡会が開催された。当日は、産経新聞論説委員、上海支局長の河崎眞澄氏を講師としてお迎えし、「取材を通じて見た日中関係」というテーマでご講演頂いた。取材の現場から見た上海経済の動向と、ニューノーマル(新常态)時代の日中関係について、鋭い切り口で、わかりやすくご説明頂いた。昨今の日中関係の複雑化や株価急落等の問題で更に関心が高まっていることもあり、当日は74名もの会員の方々のご参加があった。

ご講演頂いた内容は、まずは上海株急落について。誰が演出したのか、個人投資家の総取引額に占める割合の異常なまでの大きさと、信用取引の増大やそのしくみ、対応策として当局の複数回にわたる利下げと預金準備率の引き下げとその効果について詳しく説明。それに続いて、人民元の自由化・国際化、AIIB、BRICS銀行、一帯一路政策、FTZ、2016年春開園予定の上海ディズニーランド等、政治から経済、金融、レジャーまで幅広い内容を具体的事例も交えご解説頂いた。



第1回会合の様子

第13次5カ年計画と新シルクロード構想については、習近平指導部として初の独自作成となる案であり、これからの中国の方向性を見極めるうえで世界中が注目していると解説。「2016年3月のAIIB第一号案件の成否が第13次5カ年計画の成否に結び付く」とのことで今後とも注目していきたい。

また日本、中国、韓国、台湾の関係をドラえもんキャラクターに例えて、各々の複雑な関係を大変分かりやすく表現されていた。余

談として7月25日に開催予定のSNH48の第2回総選挙のお話では、数十万票ある自分たちの投票でアイドルの順位が変わることについて、「投票で世の中が変わる」ことを選挙のない中国の若者たちがどう思っているのか、というご発言がとても印象に残っている。

ご参加された会員からの評判も上々で、「過去を振り返って見ても上海を起点に歴史が動いている」ことを改めて認識できた、とても有意義な講演会となった。